

平成30年度 明正小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 谷島 豊、押田 まり子、河野 祥多、福井 緑、柏木 良子
報告書作成者： 副校長 柄澤 武志

評価時期 平成31年2月

1 重点目標の評価

(1) 重点目標1「豊かな心を育む教育活動」について

本校では、日常的に気持ちのよいあいさつの励行に取り組んでおり、学校外でも地域の方にあいさつをする児童の姿が見られる。また縦割り班等の異年齢集団による活動を多く取り入れ、児童に「明正ファミリー」との意識をもたせ、温かな人間関係を構築し、目標の具現化に努力した。人権の花の活動、異学年交流学习、地域清掃等は、豊かな心を育むことに有効な手だてであり、今後も継続し、充実させてほしい。

道徳が教科化され、話し合う道徳・議論する道徳の授業改善に努めたことは高く評価する。いじめや児童虐待が社会問題となっている昨今の状況を鑑み、本校での豊かな心を育む教育活動のさらなる充実に期待する。

(2) 重点目標2「健やかな心と体を育む教育活動」について

「なわとび大会」では、児童が一生懸命に取り組んでいる姿を見ることができた。ペースランニングでは児童が「マラソン大会」を目標に意欲的に取り組んでいることが分かる。これらの体育的取組によって、児童は運動を「辛い」と思わずに、楽しさや充実感を味わっており、意欲・関心を高めるのに有効であった。オリンピック・パラリンピック教育や食育の実施については、児童にとって貴重な機会を設けており、その努力を評価する。

(3) 重点目標3「確かな学力を身に付けさせる教育活動」について

算数少人数授業や明正タイム等による基礎・基本の定着は効果があったと考えている。また、夏季休業中や個人面談期間中の補習の実施は、個に応じた非常に丁寧な指導であると高く評価する。さらに学校公開における授業では、児童が様々な意見を発表したり、話し合ったりしており、思考力、表現力が育っていると感じた。

学校図書館やパソコン室の活用は、促進されたと思われるが、保護者・地域の側からすると活用の状況が見えづらいと言える。学校が積極的に情報発信し、PTAからの図書寄贈等による協力も受けながら、さらに情報教育の充実を図る必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

- ・児童の悩みや問題を早期に発見し、対応できるように、担任以外の教員やスクールカウンセラー等に相談できるような体制整備をさらにしていく必要がある。
- ・学校の教育活動をより広く、深く理解してもらうために、学校ホームページを充実させる等の情報発信を工夫する必要がある。

3 その他の意見

- ・児童・保護者数が増加する中で、行事の実施方法等を変更することは必要であるが、保護者の意見を聞くとともに、実施後に振り返りをし、よりよい取組にしてほしい。
- ・教育の充実の名目の下、教員の働き過ぎが懸念される。実効性のある教員の働き方改革の推進を望む。